

長野市観光振興計画 の役割と策定の意義

NAGANO

- 次期計画では、選ばれる観光地になるために必要な取り組みを実施し、観光客の満足度を上げることでリピーターを確保することで、「ながのファン」を増やしていきたいと考えています。
- また、観光振興の目的は地域経済の活性化にもあります。本計画の実施を通じて、本市経済の発展に寄与していきます。
- 計画期間は平成29～33年間までの5年間です。ただし、長期的に継続した取り組みが必要な事項についても記載します。
- なお、本計画は市民や観光事業者等の関係する皆さんと共有すべき“旗印”でもあります。地域全体が同じ方向を向いて活動するのが重要です。

①これまでの総括と長野市観光の現状

● 前計画及び現行計画の総括

前計画では“各地域をブランド化する”をコンセプトに地域別イヤーキャンペーンを実施し、現行計画では、それらの地域をつなげ、観光客を増やし、滞在時間を延長することを目指し、テーマ別キャンペーンを展開して来ましたが、これらの取り組みにより、認知度の向上など一定の成果が見られますが、市内での滞在時間が短い点や満足度がそれほど高くない点など取り組んで行かなければならない課題も見られます。

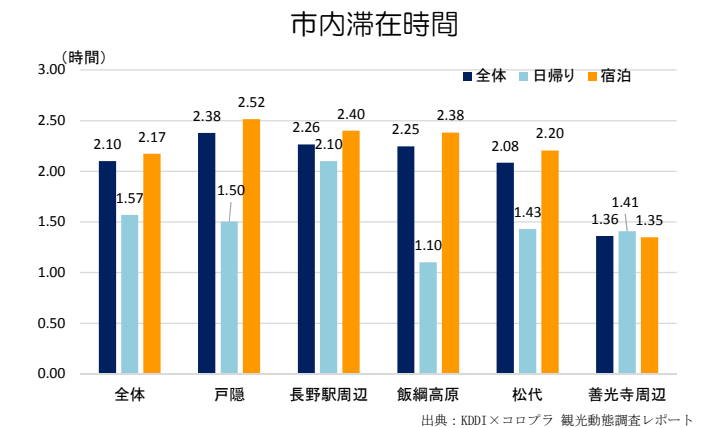
● 長野市観光の現状と課題

■ 各種調査結果から

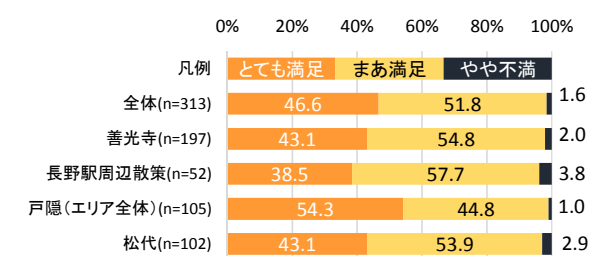
- 本市には多種多様な観光コンテンツがあり、選択肢が多い多軸型の観光都市です。また、本市は首都圏や北陸、県内他観光地とのアクセスが良くハブ機能を有しており、広域観光の拠点であるという強みを持っています。
- 認知度をみると善光寺、戸隠は高いですが、松代など他の観光地はまだ低い状況にあります。
- 市内周遊があまりなされていません。また平均滞在時間が短く、全体で2時間10分、特に善光寺周辺は他の市内観光地と比較しても短さが顕著で、1時間36分となっています。善光寺にお参りで訪れた後、すぐに他の観光地に移動しているといえます。
- 市内観光における満足度は「とても満足」より、「まあ満足」の割合が高く、決して高いとはいえない状況です。観光することによって得られる体験や感動が弱く、ファンとはなっていないことが考えられます。
- 長野市来訪者の動向としては、松本市、上田市、千曲市、小布施町への立ち寄りが多く、長野市以外の観光地とあわせて周遊しているといえます。また、インバウンドでは市外だけでなく県外も含めて広域に移動しています。

■ 事業者ヒアリングの結果から

- 観光事業者からは、地元のことや市内の他地域に関する情報不足のため、紹介できないことが多いとの声があがっています。事業者同士の連携が弱く、その点も市内周遊を促進できていない要因の一つと考えられます。
- 観光の重要な要素である、魅力的な「食」が弱いとの指摘があり、その強化が必要です。
- 地域経済の活性化に十分寄与していないとの指摘もあり、地域でお金が回る仕組みづくりが求められています。



来訪者の満足度



②観光振興計画の目的

● 地域経済の活性化に寄与する

観光は訪れた方々にモノやサービスを提供し、対価を得る産業といえます。次期計画では、観光客に選ばれる地域を実現し、訪れた観光客に満足していただくことを通じて、観光消費額を増やすことで地域経済の活性化を生み出します。

● ながのファンを増やす

国内観光市場が縮小するなか、何度も訪れてくれるリピーターを増やすことはとても重要といえます。次期計画では何度でも訪れたい観光地づくりを目指します。

※そのために...

- 選ばれる、何度も訪れたい地域にするために、観光地の磨き上げを行います。
- 魅力的なプロモーションを行い、訪れたいという気持ちを醸成します。
- 気持ちよく長野市観光ができる環境・体制を構築します。

③計画の実行に関する考え方

● 次回の御開帳に向けて計画を実施していく

次期計画は最終年度である平成33年に善光寺御開帳が開催されます。次期計画では、次回の御開帳のときにその成果が開花するように事業を実施していきます。

また、計画期間中に様々なイベントが予定されています。特に平成32年に開催される東京オリンピックでは多くの外国人観光客が本市を訪れることが予測されます。インバウンド関係の施策は東京オリンピックに向けて成果が出るように実施していきます。

※参考：計画期間中に予定されているイベント

H29	H30	H31	H32	H33
信州デスティネーションキャンペーン	アフターデスティネーションキャンペーン		東京オリンピック	善光寺御開帳 戸隠神社式年大祭

④事業立案の方針

● **地域を磨き上げるための方針**

● **善光寺、戸隠、松代を起点とした、周遊を促す仕組みの構築**
本市の代表的な観光資源である、善光寺、戸隠、松代を誘客の起点とし、そこに市内他地域の観光資源を組み合わせることで市内の周遊を促し、滞在時間延長を図ります。

● **観光客の満足度を高めリピーターを確保**
本市ならではの「伝統文化、自然」に加え、「食・お土産」「スポーツ」や「アート」など新しい資源なども活用し、多様な観光コンテンツを生み出すことでリピーターを増やします。

● **インバウンドの推進**
現在多数当市に訪れている台湾、今後来訪者数の増加が期待されるタイを中心としたアセアン諸国、冬期間多数スキーに訪れているオーストラリアなどを対象とした誘客活動や、受入環境整備を進めます。また、広域連携による周遊コース等の提案も進めます。

● **受入環境を向上させるための方針**

● **観光事業者、観光関連団体との連携強化**
観光事業者（以下「事業者」という。）(注) や観光関連団体の方々と連携した取り組みを行うことで地域への観光消費を促します。
(注)観光事業者：観光は裾野の広い産業です。本計画は、観光客にモノやサービスを提供する事業者だけではなく、農業者や製造業者の方などにも幅広く関わりがあります。行政と、関係する事業者の方々と連携して観光振興に取り組みたいと考えています。

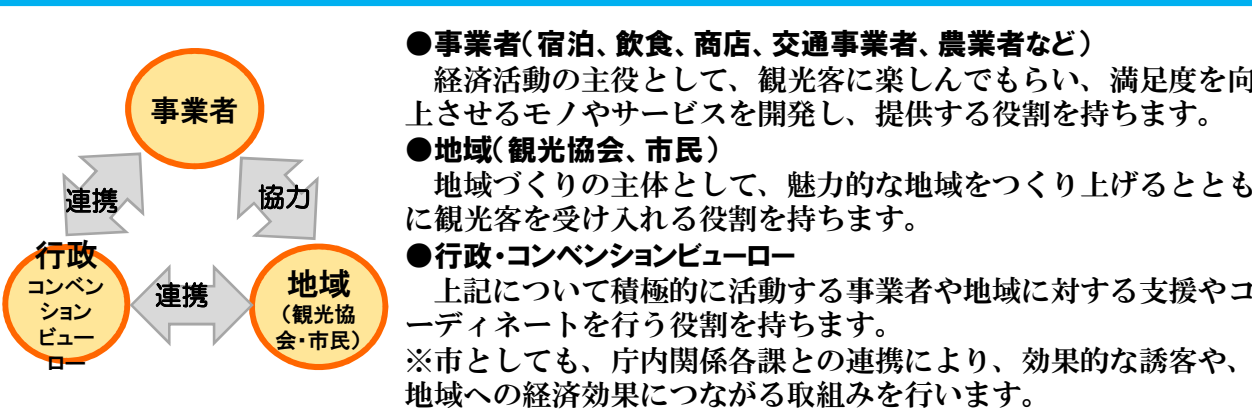
● **おもてなし意識の醸成**
観光客を快く迎え入れるためには、おもてなしの心が欠かせないため、市民や事業者のおもてなし意識の醸成に努めます。なお、おもてなし意識の醸成は、長期的に継続した取り組みを実施します。

● **本市の強みを活かすための方針**

● **広域観光の推進とハブ駅機能の強化**
金沢市などの北陸新幹線沿線自治体や、松本市などの周辺自治体、連携中枢都市圏自治体との広域連携により広域周遊ルート等の提案をすることで効果的な誘客を図ります。また長野駅のハブ機能を強化するため、本市に滞在しながら周辺観光地へ周遊できることを発信するとともに、滞在している観光客の市内周遊を促進します。

● **特色あるコンベンションの誘致促進**
国内外のコンベンションやスポーツ大会、文化芸術イベント等の積極的な誘致を進め、合わせて観光誘客につなげます。

⑤関係する各主体の役割



⑥計画の構造

次期計画は「政策体系」と「アクションプラン」の2つで構成します。

- **政策体系(案) ※下図参照**
主に5年間で実施する事業の内容を体系的（政策－施策－事業）に取りまとめたものです。
- **アクションプラン(案) ※別紙「アクションプラン(案)の概要」参照**
複数の関係者が協力し、一体となってひとつの目的のために取り組むプロジェクトをアクションプランとして記載します。

基本戦略：
政策体系

重点戦略：
アクションプラン

<政策体系(案)>

